

ふるさと絵本

えりもっていいな

監修・文 高橋 揆一郎
絵 ながせ 義孝



北海道・えりも町

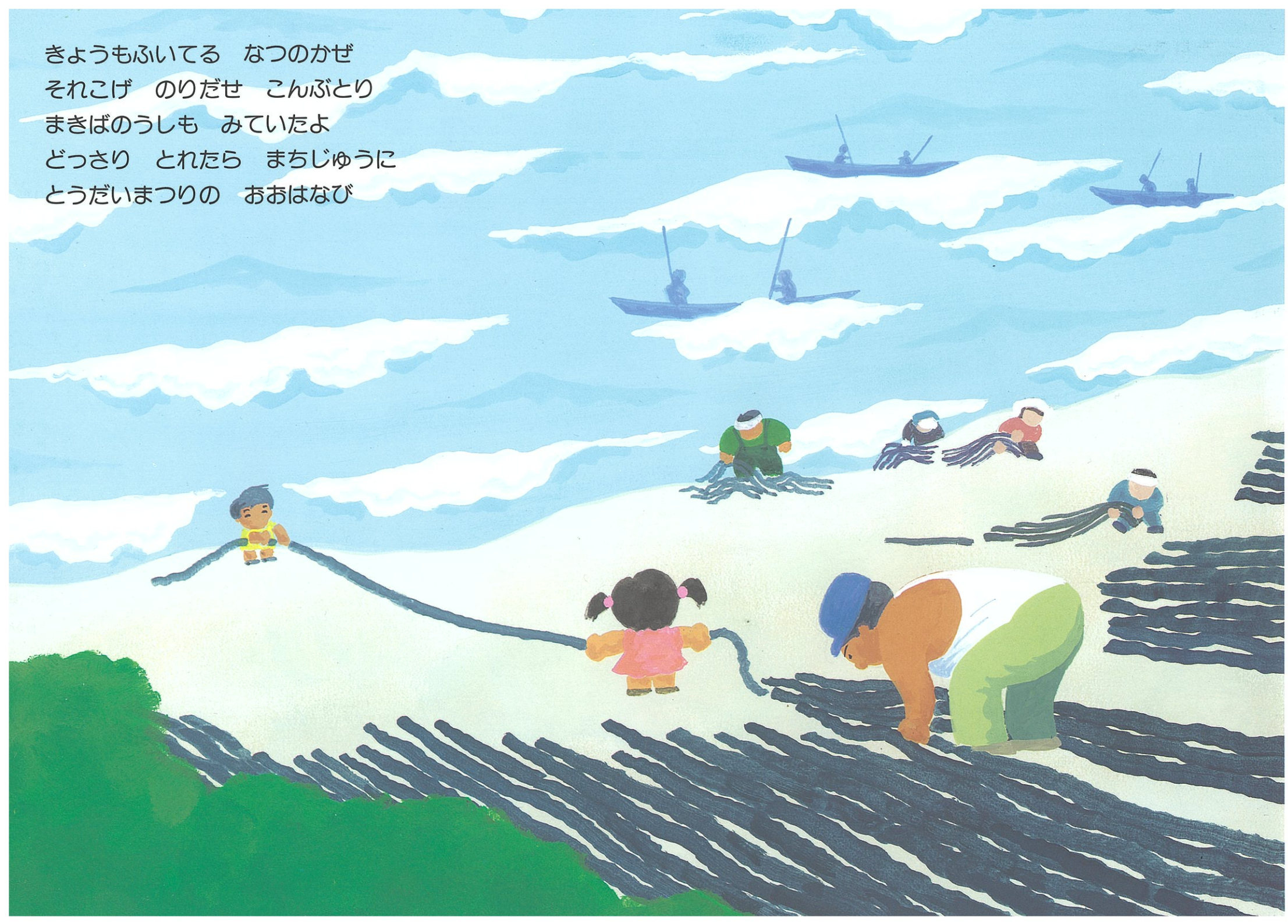
きょうも ふいてる はるのかぜ
さんさいとりやら フノリとり
コゴミにワラビ ハマボーフ
うぐいすなくやま はなざかり



みんなでおはなみ していたら
あかちゃんあざらし うまれたと
おしえてゆくよ わたりどり
えりものはるの ひがのぼる



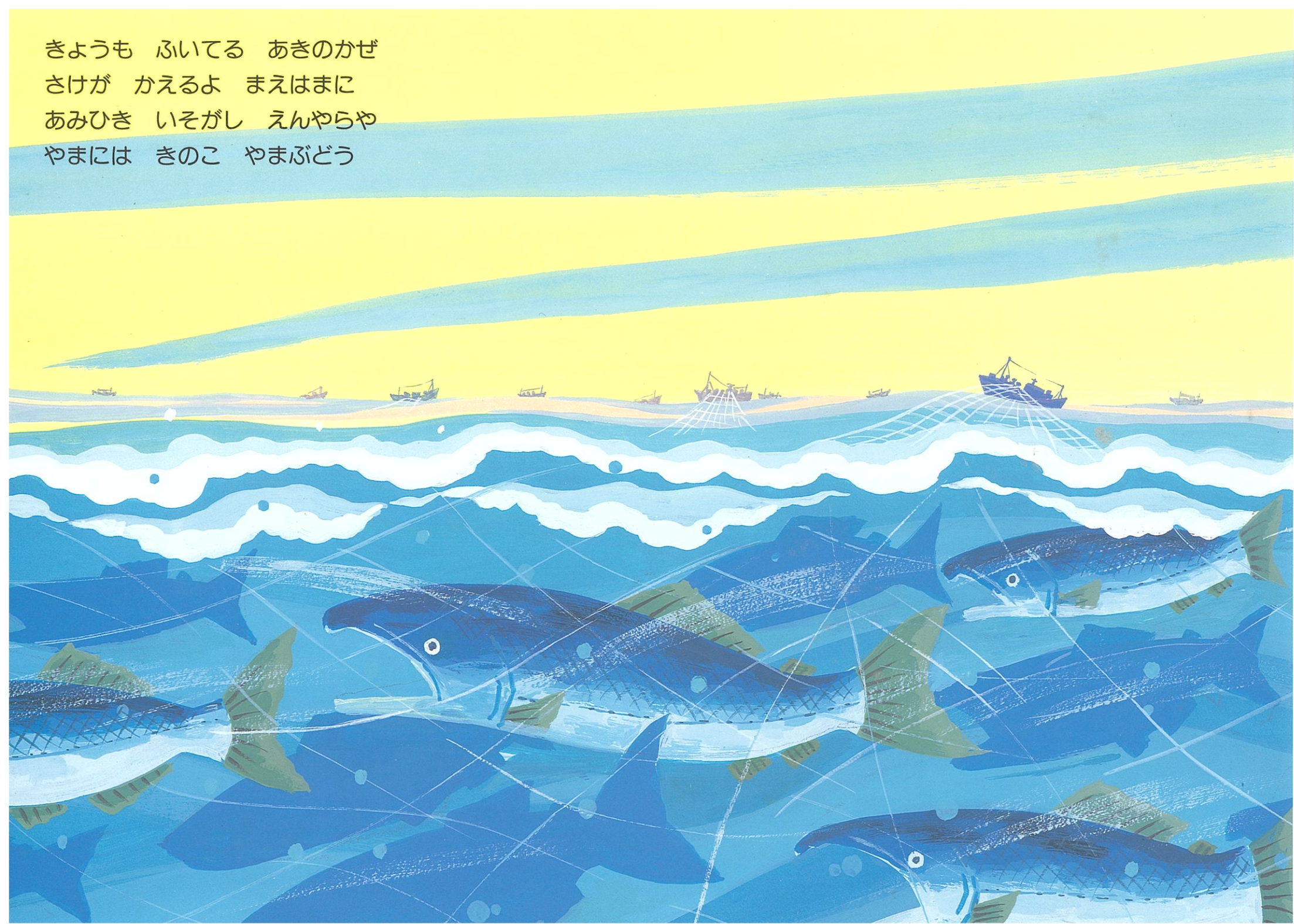
きょうもふいてる なつのかぜ
それこげ のりだせ こんぶとり
まきばのうしも みていたよ
どっさり とれたら まちじゅうに
とうだいまつりの おおはなび



はまなすさくころ なきうさぎ
むてきを きいて ねんねして
えりもの なつの ひがしずむ



きょうも ふいてる あきのかぜ
さけが かえるよ まえはまに
あみひき いそがし えんやらや
やまには きのこ やまぶどう



えぞしかぼうやが ぴよんとはねた
はまなすあかい あきまつり
だいこんほしたら ふゆがこい
えりもの あきの ひがのぼる



きょうもふいてる ふゆのかぜ
はたはた がんぜが こんにちは
かあさん つけもの いっとうしょう
オオハクチョウも かしわぎも
じつと ふぶきに たえている



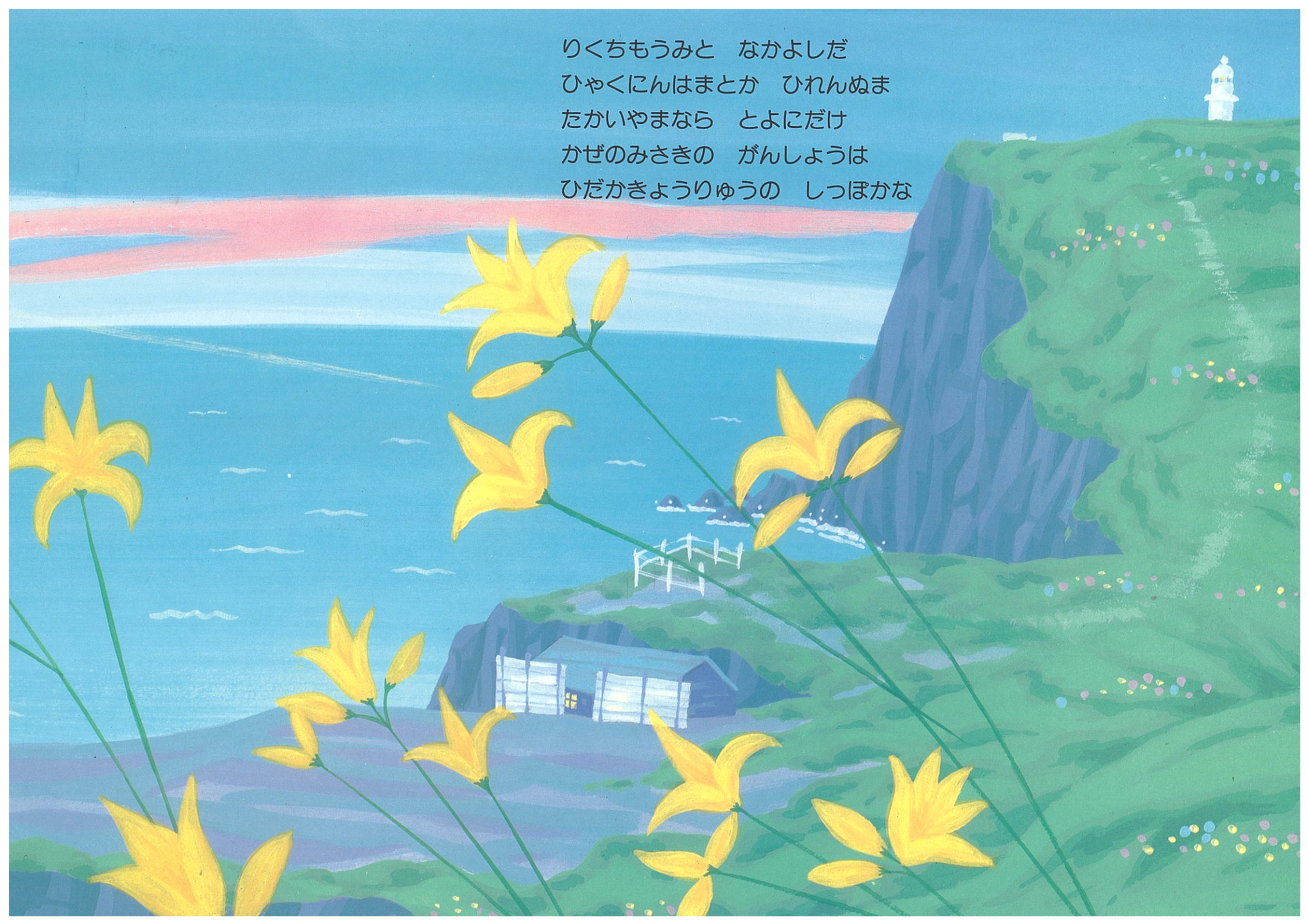
さむさも へいき こどもたち
スケートあそびよ またあした
えりもの ふゆの ひがしずむ



えりものうみは まあるいぞ
あさひが まぶしい おはようさん
つきはきらきら こんばんは
ときどき ガスや おおしけで
きげんのわるい こともある



りくちもうみと なかよしだ
ひやくにんはまとか ひれんぬま
たかいやまなら とよにだけ
かぜのみさきの がんしょうは
ひだかきょうりゅうの しっぽかな



えりものうみは まあるいぞ
ちきゅうがまるい めもまるい
うまれてそだった しおかぜの
ここが えりもの まちなのさ

ここが みんなの まちなのさ



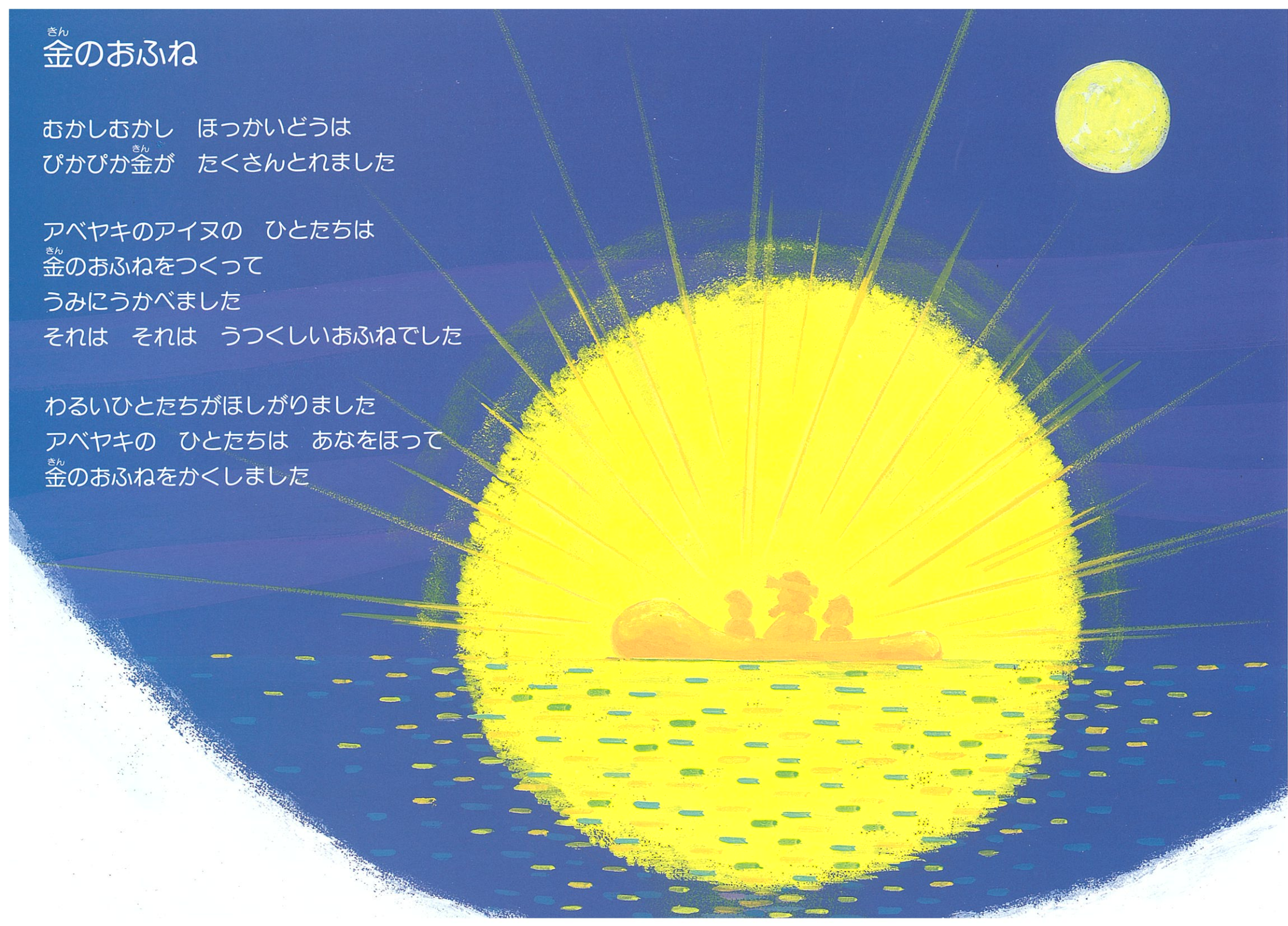


きん
金のおふね

むかしむかし ほっかいどうは
ぴかぴか^{きん}金が たくさんとれました

アベヤキのアイヌの ひとたちは
^{きん}金のおふねをつくって
うみにうかべました
それは それは うつくしいおふねでした

わるいひとたちがほしがりました
アベヤキの ひとたちは あなをほって
^{きん}金のおふねをかくしました



うえに きがはえて

きん
金いろのみがなりました

わるい ひとが とっても とれません

よい ひとが さわると ぼろりんこ

金のおふね 〈子守唄風に〉

♩♩♩♩

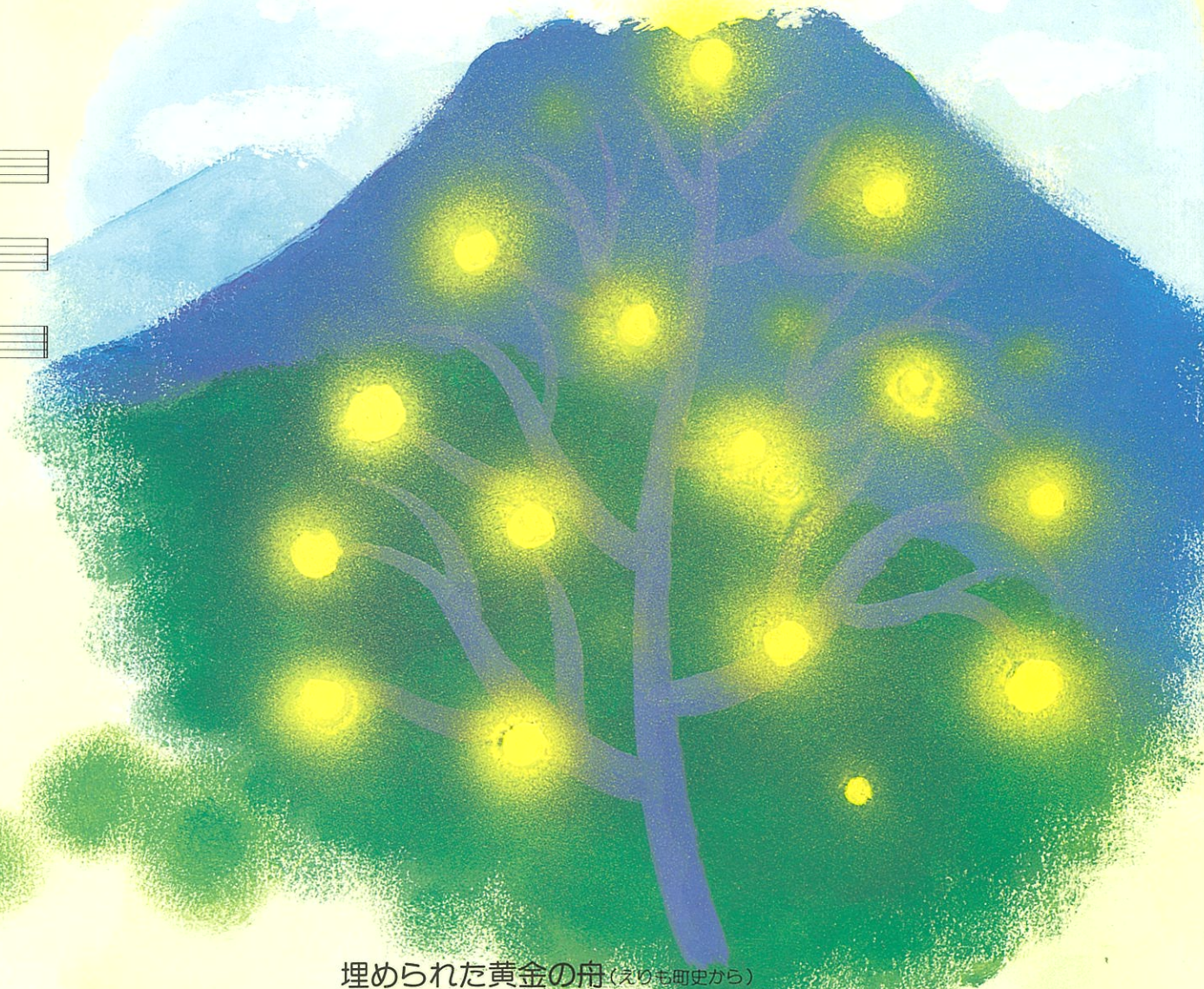
あゆから なんびやく なんじょう わん

いまは しずかな もりまげで

きんの おふねは ねむって える

でも だあれも みたこと ないんだって

(埋められた黄金の舟から)



埋められた黄金の舟 (えりも町史から)

むかし、ニカンベツの川辺のコタンに黄金の舟を持っていたアイヌがいた。アイヌは、兇悪な同族がやってきて、それを持って行くのではないかと、心のやすまることがなかった。それで思案の結果、名案を思いついた。黄金の舟を土の底に深く埋めておくことであった。その後、この舟はまったく地上から姿を消してしまった。

えりも町開基110年記念



監修・文——高橋 揆一郎(芥川賞作家)
絵——ながせ 義孝(イラストレーター)
発行——北海道えりも町・えりも町教育委員会
発行日——平成2年9月28日
企画・制作・著作権——(株)綜合企画ゴールデンアート
〒060 札幌市中央区南2条西10丁目ジムテル10F
☎(011)271-0966